

〈地球圏科学専攻 博士課程前期〉

令和6年度4月入学生を募集する専修部門と主指導教員及び主な研究内容

専修部門	主指導教員	主な研究内容
地球環境物理学	教授 博士(理学) 高島 久洋	地球規模・地域規模の大気科学
	教授 博士(理学) 林 政彦	地球的規模の大気環境変動の研究
地球流体力学	教授 博士(理学) 岩山 隆寛	地球および惑星における流体现象の理論的研究
	教授 博士(理学) 西 憲敬	対流圏における大気現象の研究
水圏物質化学	未 定	—
地球変動科学	教授 学術博士 上野 勝美	微化石層序と古生物地理に関する研究
	教授 博士(理学) 柴田 智郎	地殻流体の成因や流動に関する研究
	教授 博士(理学) 三好 雅也	マグマの成因に関する岩石・地球化学的研究
	准教授 Ph.D 田上 響	古脊椎動物の比較解剖学・機能形態学に関する研究
適応構造生物学	教授 博士(理学) 中川 裕之	細胞運動と形態形成機構の分子生物学的研究
適応機能生物学	准教授 博士(理学) 藍 浩之	動物の環境適応行動と脳情報処理に関する研究

授業科目, 単位, 担当者及び履修方法, 主な研究内容(令和5年度現在)

※令和5年度開講科目は, シラバス(授業内容含む)をWebで公開しております。「電子シラバス 福岡大学」で検索の上, 参照ください。

主要科目

専修部門	授業科目	単位数	担当者	主な研究内容
地球環境物理学	地球環境物理学講究Ⅰ	4	教授 博士(理学) 高島 久洋	地球規模・地域規模の大気科学
	地球環境物理学講究Ⅱ	4	教授 博士(理学) 林 政彦	地球的規模の大気環境変動の研究
	地球環境物理学実験	10	教授 博士(理学) 高島 久洋 教授 博士(理学) 林 政彦	
地球流体力学	地球流体力学講究Ⅰ	4	教授 博士(理学) 岩山 隆寛	地球および惑星における流体现象の理論的研究
	地球流体力学講究Ⅱ	4	教授 博士(理学) 西 憲敬	対流圏における大気現象の研究
	地球流体力学実験	10	教授 博士(理学) 岩山 隆寛 教授 博士(理学) 西 憲敬	
水圏物質化学	水圏物質化学講究Ⅰ	4	未 定	—
	水圏物質化学講究Ⅱ	4	未 定	—
	水圏物質化学実験	10	未 定	—
地球変動科学	地球変動科学講究Ⅰ	4	教授 学術博士 上野 勝美	微化石層序と古生物地理に関する研究
	地球変動科学講究Ⅱ	4	教授 博士(理学) 柴田 智郎	地殻流体の成因や流動に関する研究
	地球変動科学講究Ⅲ	4	教授 博士(理学) 三好 雅也	マグマの成因に関する岩石・地球化学的研究
	地球変動科学講究Ⅳ	4	准教授 Ph.D 田上 響	古脊椎動物の比較解剖学・機能形態学に関する研究
	地球変動科学実験	10	教授 学術博士 上野 勝美 教授 博士(理学) 柴田 智郎 教授 博士(理学) 三好 雅也 准教授 Ph.D 田上 響	

適応構造生物学	適応構造生物学講究Ⅰ	4	教授 博士(理学) 中川 裕之	細胞運動と形態形成機構の分子生物学的研究
	適応構造生物学講究Ⅱ	4		
	適応構造生物学実験	10	教授 博士(理学) 中川 裕之	
適応機能生物学	適応機能生物学講究Ⅰ	4	准教授 博士(理学) 藍 浩之	動物の環境適応行動と脳情報処理に関する研究
	適応機能生物学講究Ⅱ	4		
	適応機能生物学実験	10	准教授 博士(理学) 藍 浩之	

特修科目

部 門	授 業 科 目	単位数	部 門	授 業 科 目	単位数
非 専 修	地球環境物理学特論Ⅰ	2	非 専 修	適応機能生物学特論Ⅰ	2
	地球環境物理学特論Ⅱ	2		適応機能生物学特論Ⅱ	2
	地球流体力学特論Ⅰ	2		科学哲学特論	1
	地球流体力学特論Ⅱ	2		地球圏科学特別講義Ⅰ	1
	水圏物質化学特論Ⅰ	2		地球圏科学特別講義Ⅱ	1
	水圏物質化学特論Ⅱ	2		地球環境物理学特別講義	1
	地球変動科学特論Ⅰ	2		地球流体力学特別講義	1
	地球変動科学特論Ⅱ	2		水圏物質化学特別講義	1
	地球変動科学特論Ⅲ	2		地球変動科学特別講義Ⅰ	1
	地球変動科学特論Ⅳ	2		地球変動科学特別講義Ⅱ	1
	適応構造生物学特論Ⅰ	2		適応構造生物学特別講義	1
	適応構造生物学特論Ⅱ	2		適応機能生物学特別講義	1

- 1 学生は、主要科目のうちから1専修部門を選定し、これをその学生の専修科目とする。
- 2 学生は、専修科目担当者のうちの1人を主指導教員とし、専修科目及び専修科目以外の科目の選定並びに学位論文の作成、その他研究一般についてその指導を受けるものとする。
- 3 前項のほか、学生は、主指導教員が定めた副指導教員の指導も受けるものとする。
- 4 学生の標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計30単位以上を修得しなければならない。
- 5 前項の30単位以上は、専修科目18単位(講究8単位、実験10単位)及び特修科目12単位以上とし、主指導教員が必要と認めた場合、他の専攻又は研究科の授業科目を履修し、これを特修科目の単位にあてることができる。
- 6 学生は、主指導教員を主査として、専修科目について修士の学位論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。